

# 釣りの随想…⑤

## 大ヒラメを釣った(II)



浜田広信 (植田)

ある秋であった。門田さんと二人で奥山の沖でチヌを相対お互いが釣って、午後に浅橋の岸壁前まで帰って来たところ「エビが残っているからもう少し釣りたい」と門田さんが話す。その日は調子がよくて私はアカメを一尾釣っていた。舟は浅橋の競馬場の西の舟だまりへ常時つないであるから帰り着いたも同様。それでは岸壁通りでやってみようかということになり二人で始めた。

ここは有名なA級のアジロ(注)である。なぜならば、定期船やその他の船が常に残飯を流し捨てるので、各種の魚が集まってくる一大アジロである。二人が竿を垂れていたら門田さんが「きた」と叫んだ。竿の先を見ると普通のチヌの引きと違ってあおるように引いているので、私が多年の経験で「それはヒラメだ。慌てることはない。よく食い込まして」とアドバイスした。そのうちに新聞紙のような白い物が見えた。確かにヒラメだ。そうすると、船の舷で荷役をしていた大勢の労働者がそれを見て「太い。なんだろう」と騒ぐ。大物を釣ったときは禁物だ。騒ぐと底に引き込む。それで、私が舟を沖へ漕ぎ出した。そして魚を浮か



「ほのほの広場」に、あなたの身の回りのほのほのとした話題や我が家の自慢料理、読書の感想など、お気軽に投稿ください。

▼投稿先・〒783 南園市大浦甲三〇一 南園市役所内広報委員会まで。

して網で頭からすくわねばならん。この魚は尾に触れると暴れて糸が切れるおそれがあるので大事だ。運よく水面へ浮いたところをすくい取った。ヒラメの大物であった。門田さんは大喜び。「今夜はこれを肴に飲もう」と言ったが、門田さんは上町で遠いので行けなかった。

翌日、電話で聞いたところ一貫目余りあったとのこと。ヒラメは魚体が薄いので一貫目余りは大物で、浦戸湾では珍しい。浦原博士によると、五年くらいしたら全長八〇センチに達すると書いてあるが、門田さんの釣った物は六〇センチは確かにあつたと思う。ともかく大物であった。

ヒラメは秋、冬にうまい。さしみにすればタイやサワラも及ばぬ。糸切さしみにすれば病弱者によし。特に婦人の産後には効果があるといわれている。(つづく)

(注)アジロとは古い日本語である。万葉時代あるいは、まだ古いかもしれない。百人一首に「朝ぼらけ宇治の川霧たえだえにあらはれわたる瀬々の網代木」網代木(川へ抗を打っておくと藻や草が掛かり魚が集まること)

宇治川は琵琶湖の瀬田川から宇治川になり、大阪へ入り淀川となり魚も昔は多かったと思う。



### 新刊案内

- 【一般図書】
- 漁業学 (能勢幸雄) ▼ 夢とビジョン (木村尚三郎) ▼ ドイツ人記者の見た日本 (A・テトロフ) ▼ 伊藤整氏奮闘の生活 (伊藤礼) ▼ エヴリデイ・ドリンキング (キングスレー・エイミス) ▼ 魚と行動と漁法 (井上実) ▼ 挨拶はむづかしい (丸谷才一) ▼ 奇人変人愉快人 (この超人たちの発想を盗め (萩原英昭) ▼ いろいろの目 (佐野洋)
  - ▼ 解剖学講義ライリップ・ロス
  - ▼ 嫁姑「赤の他人」やほつちち
  - ▼ (朝丘雪路) ▼ おもしろ電気工作 (古川明徳) ▼ ボクラ少年国民 (山)
  - ▼ 中恒) ▼ 大黄河 (井上靖) ▼ 古代の霧の中から (古田武彦) ▼ アキノ家三代(下) (三ツク・ホアキン)
  - ▼ ロードス島攻防記 (塩野七生)
  - ▼ 日本の現代小説 (藤田一士) ▼ 破獄 (吉村昭) ▼ 妻と娘の闘い(行)つた特派員 (近藤敏一) ▼ 秀吉と武吉 (城山三郎) ▼ 心変わり (ア
  - ▼ ウィン・ショー) ▼ 木と話す女 (山口洋子) ▼ 終着駅 (結城昌治)



ご家庭で話し合せて答えてください。答えは、この広報に出ています。

- もんだい・海岸愛護月間中の○月二十日、地元住民ら約二千人が海岸の一斉清掃をしました。
- しめきり・8月15日
- あて先・〒783 南園市大浦甲三〇一 南園市役所内広報委員会親子クイズ係

● 答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。

● 賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。

第173回当選者発表(敬称略)

【応募総数31通】

● 答え・①②

● 当選者・五人

- 岡崎浩司(岡豊町)
- 浦原良江(大浦)
- 公文邦美枝(後免町)
- 黒木郁子(後免町)
- 杉本暁計(福生)